

県内産未利用広葉樹材の工芸的利用

－ 木製教育用具の製作 －

河崎弥生・中神照太・中村睦男

1. はじめに

県内産未利用広葉樹材の工芸的利用の一環として、昨年度は挽物への利用を試みたが、本年度は箱物を検討した。

近年、教育や福祉活動の現場では、時代の潮流に乗って、木造建築物や木製用具の持ち込みが歓迎されている。そこで、木材への啓蒙的意味合いをも見込んで、紙芝居舞台を製作した。

2. 材料と仕様

1) 使用樹種

ポプラ、ユリノキ、カツラ、ブナ、ケヤキを適宜使用した。

2) 外形寸法

大型の紙芝居舞台： 540mm x 420mm x 85mm

小型のもの : 410mm x 360mm x 85mm

3. 結果と考察

①樹種の加工性など

ポプラとユリノキは軟らかくて加工性がよく、白木のままでも上品さが保てることから、小物用容器としての箱物への利用には不都合がないようである。

ただ、紙芝居舞台に使用する場合には逆に、軟らかいために傷つき易いことと、軽いので立てて使用する際に安定感に欠ける心配がある。

②仕上げなど

ここでは、閉じているときは箱としての強固さを保ち、開いたときは木製であることからくる温かみを残し、さらに安定感を求めて、着色剤を添加したラッカー塗装での仕上げを試みた。

従来、紙芝居舞台は木製があたりまえであった。しかし今日では、木材特有の素材感が必ずしも要求されるとは限らないようである。返って、紙芝居そのものに対する懐古的感情からくるこだわり感覚を別にすれば、むしろ新鮮さを持続できるような素材感が強調される製品が好まれるようである。

なお、紙芝居舞台は大型と小型のものを各10ケース、計20ケース製作し、現在真庭郡内の各町村で使われている。

写真1 閉扉状態

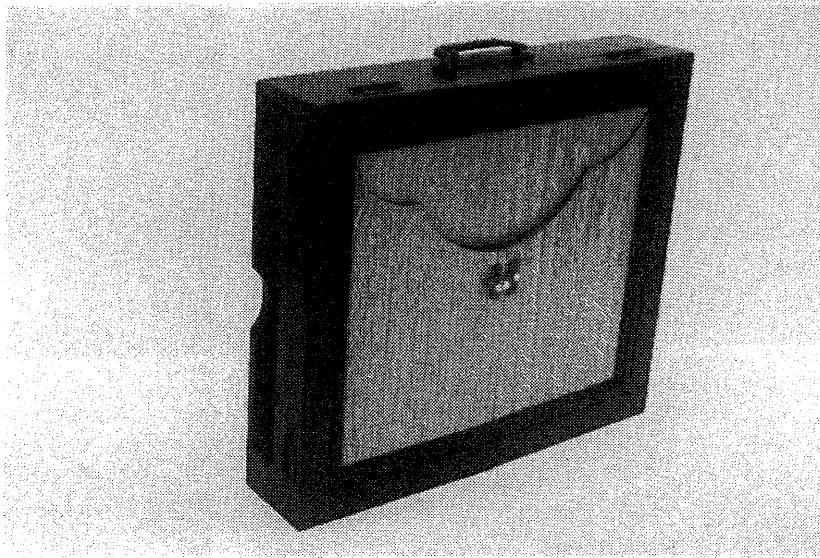
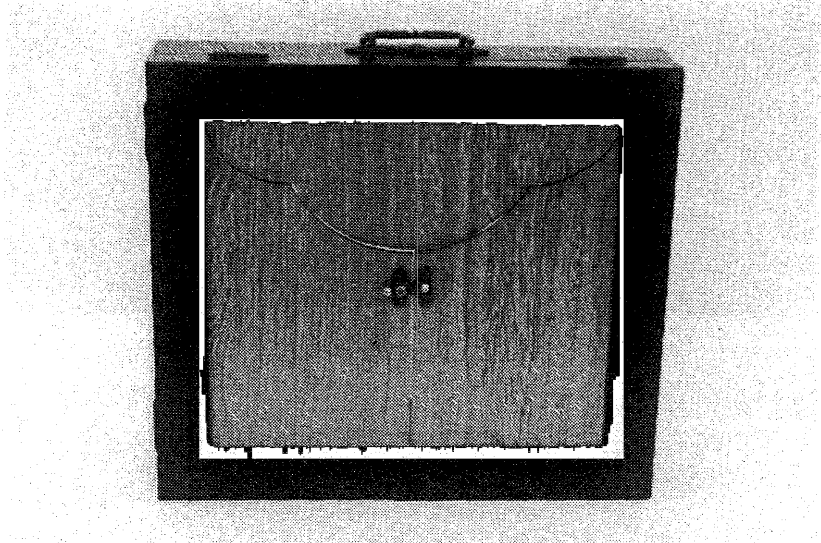


写真2 紙の出入れ口

写真3 開扉状態

